舞で笛で若者躍動

新野の雪祭り 200人以上の見物客でにぎわう

14日夕から15日朝にかけて阿南町新野の伊豆神社などでさまざまな舞や神事などが繰り広げられた「新野の雪祭り」（国重要無形民俗文化財）。地区の若者たちが舞い手や笛などを担い雪祭りを盛り上げた。【28面参照】

会社員の金田昌朗君(19)は今年、柔和な面を着けて舞う「幸法」の役を初めて務めた。金田君の軽快な舞や、ゆっくりと腰を落とす姿に、おはやし役の氏子たちも「いいね」「よしよしゆっくり」と声を掛け、見物客も沸いた。金田君は「主役なので堂々とするため、ゆっくり舞うことを心掛けた」。雪祭り保存会会長の金田昭徳さん(74)は「躍動感があり、豊作の予兆を象徴するような見事な舞だった」と絶賛していた。幸法の後には眉がつり上がった険しい面の「茂登喜」が幸法をまねて舞ったり、馬の形の衣装を身に着けた「競馬」が的に向けて矢を放ったりした。

地元の中学生や高校生も笛や太鼓で舞を引き立てた。初めて笛を吹いた地元の阿南第二中学校3年の木村思英瑠さん(14)は「中学を卒業する前に一度は出ようと思い参加し、みんなと一緒に曲を吹けた。次はさらに吹ける曲を増やそうと、来年以降も出たい気持ちが強くなった」と話していた。

今年は例年より多い200人以上の見物客らが境内に訪れた。保存会は2014年の東京・国立劇場での公演や、15年に結成された阿南高校郷土芸能同好会による雪祭りの舞を披露する活動が見物客増加の背景にあると見ており、金田さんは「予想を超える人出だった」と話していた。

女性に棒をすりつけて回る茂登喜

笛や太鼓で祭りを盛り上げる若者たち

大勢の見物客を魅了した新野の雪祭り

弓を携え軽やかに舞う競馬